

寒川町 平成20年度事務事業評価シート(平成19年度実施事業)

事務事業名	少人数学級実施事業			第1班	第5事業
主管課・担当名	学校教育課学事担当	根拠法令等	教職員定数の標準に関する法律、寒川町教育委員会学校教育課重点事業		
課長	加藤 琢也	体系コード	42121-11	科目コード	01-10-01-02-006-04

【Plan - 計画】

(1)総合計画上の位置づけ

章	豊かな心と文化をはぐくむまちづくり
節	豊かな心をはぐくむ教育を進めます
項	家庭教育・学校教育の推進
小項目	学校教育の推進
細項目	教育内容の充実
重点プロジェクト	<input type="checkbox"/> いきいき <input type="checkbox"/> 環境 <input type="checkbox"/> にぎわい
事業区分	<input checked="" type="checkbox"/> ソフト事業 <input type="checkbox"/> ハード事業

(2)事務事業の概要

事業期間	開始年度	<input checked="" type="checkbox"/> 平成 <input type="checkbox"/> 昭和	16年
	終了予定年度	—	
事業内容	小学校第1学年について、少人数の学級編成を実施し、子どもたちへのきめ細かな指導を行う。また、当該事業による学級増に対応するため、対象校に非常勤講師を配置する。		

(3)事務事業の目的

目的	対象(誰(何)のために)	小学校第1学年の児童。
	意図(どのような状態にしたいのか)	1学級あたりの児童数(標準法による学級編成は40人)が30人程度になることで担任からのきめ細かな指導が受けられ、1年生にとって学校や授業が楽しいもの感じられること。

(4)成果指標

成果指標(単位)、または数値化できない成果	熱心に授業に取り組みたり、落ち着いた態度で授業が受けられるようになること。					
成果指標等の設定理由	静かに先生の話や友達の発言に耳を傾けたり、自分から積極的に授業に関わろうとすることで、学校や勉強が楽しくなり、充足感が得られるため。					
目標値設定の考え方						
目標値	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度

【Do - 実施】

(1)成果指標

指標(単位)	年度	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
		0		0		0		0		0		0	
数値化できない成果の達成状況	少人数学級を実施したことで、「子どもが落ち着いて授業を受けている。」「先生がよく声をかけてくれる。」「楽しく学校に登校している」など、学校や保護者からの評価が高い。												

(2)活動指標

指標(単位)	年度	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
		目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績	目標	実績
少人数学級実施対象学級数(学級)		4	4	2	2	4		4		8		8	

(3)事業費(単位:千円)

指標(単位)	年度	平成18年度		平成19年度		平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度	
		予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績	予算	実績
直接事業費		9,292	9,280	4,661	4,604								
財源内訳	一般財源	9,292	9,280	4,661	4,604								
	国県支出金												
	使用料・手数料												
	その他												
執行率		99.9%		98.8%									
人件費		736	736	733	733								
内訳	投入人員	0.1	0.1	0.1	0.1								
	平均給与額	7,355	7,355	7,325	7,325								
総事業費		10,028	10,016	5,394	5,337								

【Check - 評価】

(1) 前年度評価シートの改善内容の実施状況

平成19年度の改善予定	平成19年度の改善結果
少人数学級実施対象校2校に、1名ずつの非常勤講師を配置し、少人数学級を実施する。	少人数学級実施対象校2校に、1名ずつの非常勤講師を配置し、少人数学級を実施した。

(2) 事務事業の評価

評価の視点	評価のポイント	評価	理由
妥当性	<ul style="list-style-type: none"> 事務事業を実施する必要があるのか 町が主体となって実施する必要があるのか 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 妥当である □ どちらかと言えば妥当である □ あまり妥当ではない 	昨今の社会環境の変化により教育課題も多岐にわたる中、子ども一人ひとりにきめ細かな指導を行うため、少人数学級での指導が必要である。
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 対象者の満足度や事業の達成度はどうか(成果指標の状況) 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 十分成果が上がっている □ 成果は十分とはいえない □ 成果は上がっていない 	子ども一人ひとりがきめ細かな指導を受けることができ、熱心に授業が受けられたり、落ち着いた態度で授業が受けられるようになったとの保護者や実施校からの声が多く寄せられている。
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 事業費に無駄はないか 	<ul style="list-style-type: none"> ■ 適切である □ 適切だが改善の余地がある □ 効率的でない 	人件費について、現在の教員不足の実態から、教員を確保するため県費負担教職員(非常勤講師)の例により、賃金を同額に設定することが必要であり適切である。

【Action - 改善】

(1) 事務事業を進めていく上での課題、解決に向けての改善内容

	課題	平成20年度	平成21年度以降
妥当性			
有効性	小学校第2学年まで事業を拡大し、成果に継続性を持たせたいが必要な教職員の確保が難しいこと。	第1学年の対象校での確実な事業実施のため、県教育事務所から人材の紹介を受け、教員を確保した。	非常勤講師の募集をより積極的に行い、第2学年まで事業の拡大を図りたい。
効率性			

(2) 事業の今後の方針(課長による評価)

活動指標の目標	<input checked="" type="checkbox"/> 高める <input type="checkbox"/> 設定どおり <input type="checkbox"/> 下げる
理由	小学校第2学年まで事業を拡大し、低学年におけるきめ細かな指導を充実したい。
成果指標の目標	<input type="checkbox"/> 高める <input checked="" type="checkbox"/> 設定どおり <input type="checkbox"/> 下げる
理由	発達段階を考慮すると、小学校低学年において少人数学級を実施することで、落ち着いた学習環境、生活環境の実現が可能となる。
事務事業の方向性	<input checked="" type="checkbox"/> 方法改善 <input type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 縮小・廃止・終了 <input type="checkbox"/> 統合
理由・内容	保護者や学校から高い評価を受けており、今後第2学年まで事業を拡大し、継続していきたい。

部長確認	金子 登喜男	確認日	2008/10/15
------	--------	-----	------------